

熊本地域乗合バス事業共同経営 に関する状況報告

令和3年（2021年）10月
九州産交バス(株)、産交バス(株)、熊本電気鉄道(株)、
熊本バス(株)、熊本都市バス(株)

1 共同経営計画（第1版）の実施概要

1

複数のバス会社が重複運行している4方面において、運行本数の調整・運行間隔の平準化・乗継定期券の運用拡充などを行い、利便性の維持向上と運行の効率化を実現。

申請者

- | | |
|----------------|----------------|
| (1) 九州産交バス株式会社 | (4) 熊本バス株式会社 |
| (2) 産交バス株式会社 | (5) 熊本都市バス株式会社 |
| (3) 熊本電気鉄道株式会社 | |

計画区域・対象路線

複数のバス事業者が重複して運行する代表4区間+効率化で生じた余剰の充当先（熊本駅周辺の開発の対応） ※右図参照

共同経営の概要

- ①旧3号線方面の最適化〈植木・山鹿方面〉
重複路線の見直し、待ち時間の平準化、系統移譲に伴う定期券の継続措置、熊本駅方面の路線延伸（余剰の充当）
- ②川尻市道方面の最適化〈川尻・松橋方面〉
重複路線の見直し、待ち時間の平準化
- ③産業道路・国体道路方面の最適化〈長嶺方面〉
重複路線の見直し、待ち時間の平準化、系統移譲に伴う定期券の継続措置
- ④旧57号線方面の最適化〈楠・大津方面〉
重複路線の見直し、待ち時間の平準化、2社共通の乗継割引、熊本駅方面、武蔵ヶ丘・光の森方面の路線延伸（余剰の充当）

共同経営の目標

- ①収益性・効率性の向上
重複区間の効率化等により、収益性は約31百万円の改善、サービス維持に必要な人員5.6人/日・車両4.7台/日の軽減
- ②サービス提供維持の目標
利用者利便の水準を維持しつつ、対象55系統のサービス維持

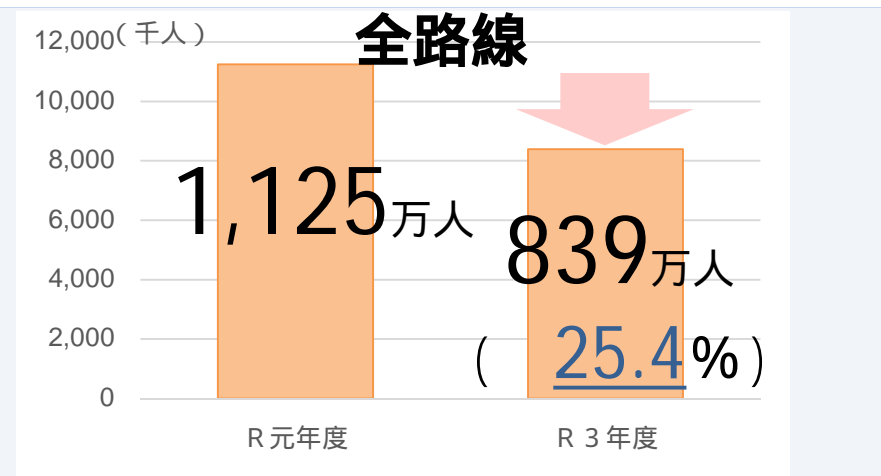
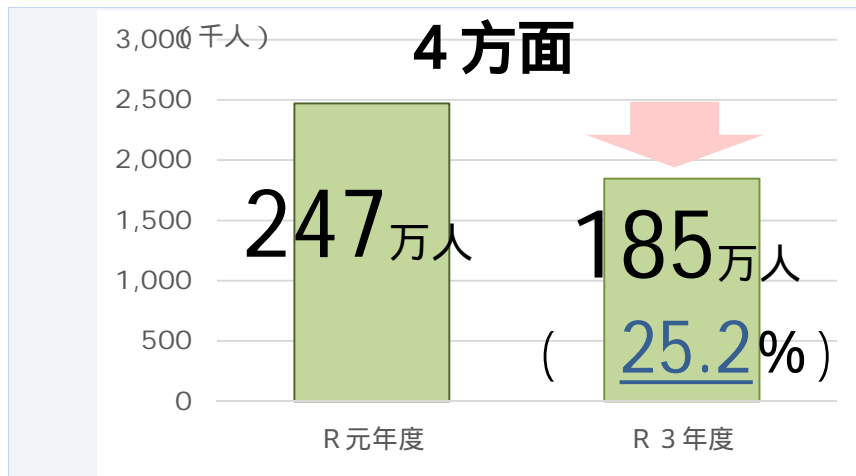
実施期間 令和3年4月1日～令和6年3月31日までの3年間



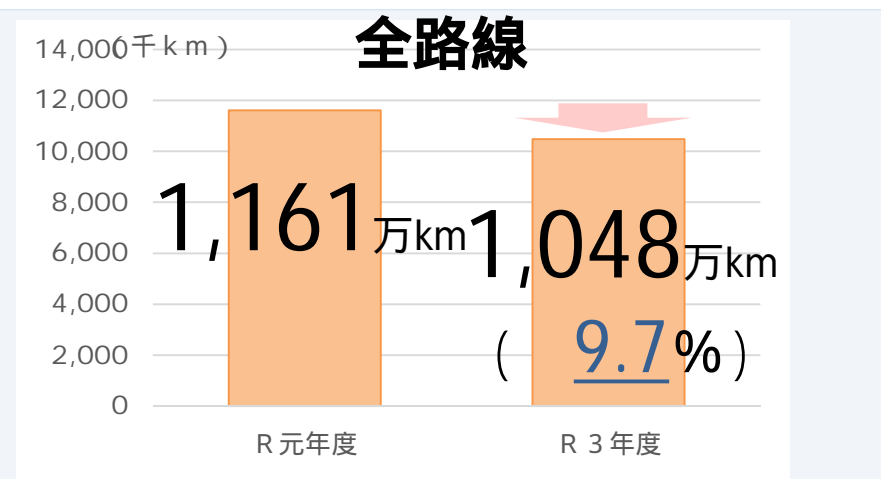
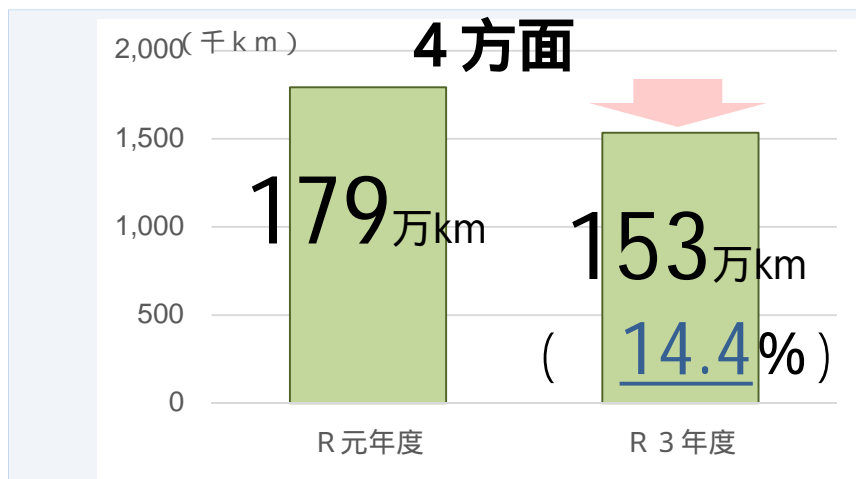
R 元年度（コロナ感染拡大前）と R 3 年度の 4～8 月実績値を比べると、4 方面の利用者数は全路線の利用者数と同水準にある。一方で、実車走行キロの削減率は大きい。

利用者数

利用者数、実車走行キロは令和元年と令和 3 年の 4～8 月の実績値の合計



実車走行キロ (旅客輸送のためにバスが運行した距離)

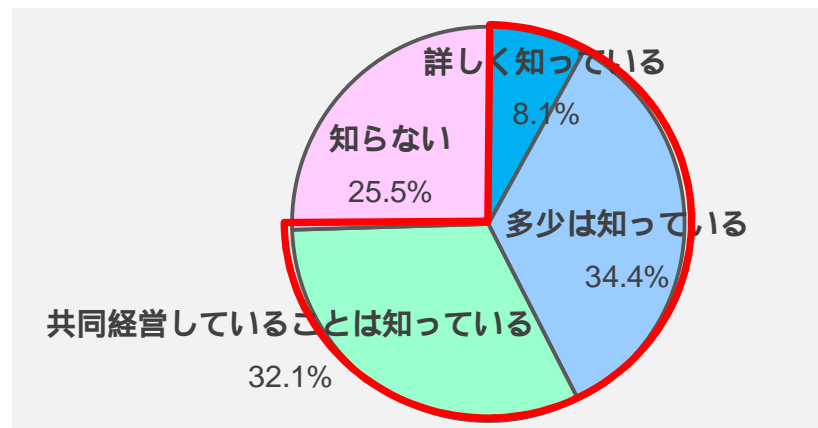


3 共同経営計画第1版に関するアンケート結果（9/30時点）

3

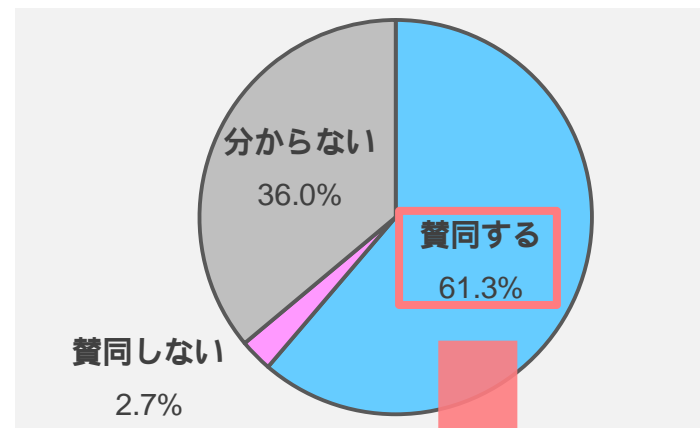
バスの利用者において、共同経営の認知度は7割以上、共同経営の取組について賛同する方は61%の結果となった。賛同されている方の多くは、サービスが維持されている事を評価している。

共同経営の認知度（n = 483）

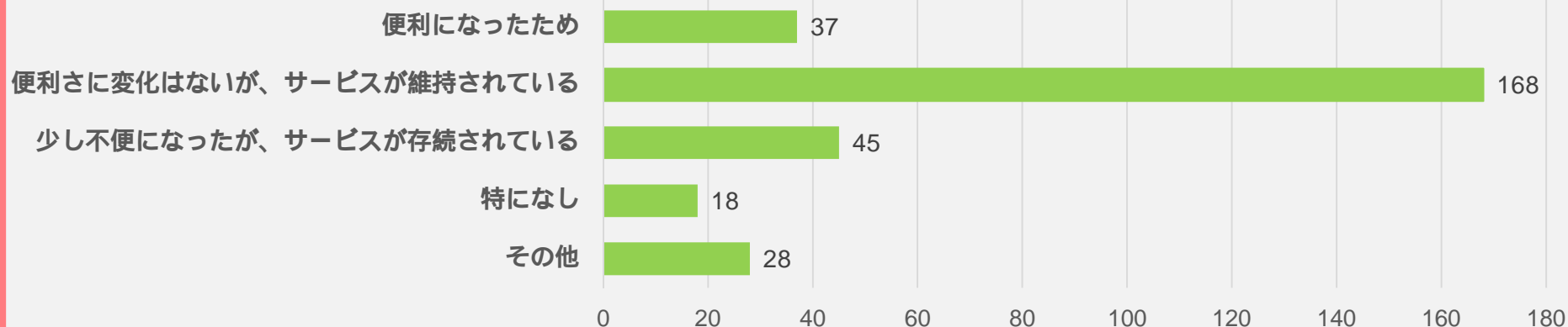


赤枠内で74.6%

共同経営の取組（n = 483）



賛同する理由（n = 296）



需給バランスの調整により、利用できる便数については『不便になった』という回答を20%～30%頂いているが、待ち時間の平準化により、ダイヤの分かりやすさについては『便利になった』という回答を一定程度頂いている。

利用できる便数 (n = 398)



ダイヤの分かりやすさ (n = 398)



共通定期券の導入

- 複数のバス事業者が運行する路線において、どの会社のバスでも利用することができる共通定期券（くまモンのICカード）について、令和4年4月の運用開始を目指し準備を進めている。



どのバス
会社でも
利用可能



路線バスのデータ公表

- 昨年度に引き続き、10月25日、熊本県地域公共交通協議会にて、路線バスに関するデータを公表。
- バス事業に対する県民市民の理解を深めるとともに、公共交通の利用を促進していくため、今後も定期的なデータ公表を予定。